

平成26年度 第5回江別市行政評価外部評価委員会 会議録（要点筆記）

日 時：平成27年1月13日（火） 18:30～19:45

場 所：江別市民会館 31号室

出席委員：井上宏子委員、加藤敏文委員、千里政文委員、山下善隆委員、小野孝雄委員、喜多馨委員、中井和夫委員、中尾敏彦委員（計8名）

事務局：企画政策部山田部長、米倉次長、政策推進課千葉課長、西田参事、中島主査、長谷川主任

会議概要

1 開会

2 議事 報告書の取りまとめについて

【資料説明】

「第6次江別市総合計画における行政評価外部評価制度のあり方検討結果報告書（案）」について事務局より説明

○加藤副委員長補足説明

各委員からいただいたご意見をもとに、委員長とすり合わせを行い、このように原案をまとめたところである。表現が適切かどうかなど、ご指摘いただければ幸いである。

○井上委員長補足説明

7頁の「4 外部評価制度の運用に関する要望」は、当初は各委員の個別の意見を箇条書きで報告する体裁としていたが、市長に報告書として提出するにあたっては個別意見ではなく、きちんと当委員会からの要望としてまとめるべきと判断し、このような記載とした。市民の方もご覧になる資料であるので、分かりやすい表現になっているかどうかという点についてもご意見をいただきたい。

【質疑・意見】

○小野委員

「4 外部評価制度の運用に関する要望」は、委員会の総意としてまとめたとのことだが、ここに少数意見としてでも追加していただきたいことがある。

まず、1項目の文中の「限られた時間の中で」のあとに、「すべての対象事業について」と言葉を付け足していただきたい。

それと、「この要望に対して期限を定めて回答すること」という項目を1つ追加していただきたい。市の広聴のルールとして、市民の要望に対しては個人の意見であっても回答しているのであるから、ましてこのような委員会としての要望に対しては明確な回答をいただいてもよいのではないか。

もう一つ、平成27年度は要望どおりの運用ができなかったとしても、平成28年度以降は委員を増員するなどしてすべての事業を対象に外部評価を実施することは可能だと考えるので、そのことも要望として追加していただきたい。

9頁の現在の「江別市行政評価外部評価委員会設置要綱」について、委員の人数は10人以内となっているだけで明確な人数が決まっておらず、再任の規定等もないのはいかなものかと思うが、これについては事務局で今回の外部評価委員会の検討結果を受けて改正していただければよい。

なお、要望として追加していただきたい点について、委員会としての報告書に記載するのが難しいのであれば、当委員会とは別に、私個人の責任において広聴経由で市長宛に要望する。

○井上委員長

今回の報告書では、市長から依頼された検討事項に対する報告だけでなく、強い表現になってしまうがそれでも敢えて「要望」という項目を設けさせていただいた。要望するからには市からの回答をきちんと提示してほしいというご意見であるが、委員会の総意として報告書に盛り込む必要があるので、他の委員のご意見も伺いたい。

○中尾委員

9頁の設置要綱に関わることについては、当委員会の所掌範囲ではない。

○小野委員

要望の内容を実現しようと思えば、当然要綱の改正が必要になることから話の引き合いに出すだけであり、要綱の改正について要望の中で触れる必要はない。

ついでに申し上げておきたいのは、江別市自治基本条例第15条第2項で、市長等は外部評価の仕組みを整備するよう努めることとなっているが、私の要望はこの外部評価の仕組みを整備することに関わる話題であるということ。また、「えべつ未来づくりビジョン（第6次江別市総合計画）」の計画書の9頁に、市民参加による外部評価がPDCAサイクルの中のCheckにあたりと記載されていることから、市としては当委員会からの要望を受けて外部評価の仕組みを検討しなければならないということである。外部評価の目的は、総合計画の目標を少しでも多く達成できるようにすることであるから、これまでの反省も踏まえて行政による内部評価調書の「てにをは」のチェック程度で終わるべきではないという議論になっていたはずである。

○加藤副委員長

報告書の3頁の「論点5：外部評価作業の流れ」に記載しているように、まず市が実施した事務事業に対する内部評価を行い、それを外部評価委員会が客観的かつ中立的な立場で外部評価を行うわけだが、これまでの外部評価でも、ただ文章の良し悪しをチェックするだけでなく、成果の達成状況についての確認も行い、かつ、より成果を向上するために改善すべきことを提案しており、今回の報告書の中でもそのことは盛り込んでいる。

○小野委員

提案を受け入れてほしいという姿勢は間違いである。自治基本条例に規定されているよ

うに、市民が市長に信託しているのであり、主権者は市長ではなく市民である。市民としてどういう姿勢でP D C Aのチェックの部分に関わるのかという視点で意見を申し上げている。

○加藤副委員長

できるだけ外部評価委員の改善提案を取り入れていくということがまず一つのチェックである。もう一点、私の解釈であるが、各事務事業の内部評価結果にもとづき外部評価委員会が外部評価を実施するのとあわせて、市民アンケート調査によって効果があったかどうかをチェックすることも市民参加による外部評価であり、そのことは報告書3頁の【内部評価にあたっての留意点】の③に盛り込んでいる。

○喜多委員

期限を定めて要望に対して回答してほしいという意見についてだが、個人的な意見として盛り込むのであればかまわないと考える。ただ、私の意見としては、「4 外部評価制度の運用に関する要望」の項目は、今回我々が議論する中で懸念事項として挙げられた点について、実際に次年度以降制度を運用していくときに留意してやってほしいということであり、期限を決めて市から回答をしてもらう必要はないと考える。

○山下委員

P D C Aのマネジメントサイクルをまわすことは行政評価の中で非常に重要なことである。小野委員がおっしゃるように、外部評価委員会がチェックしたあと、それを受けて最終的に市としてどう対応したのかという部分についても、期限を定めるかどうかは別にして、何かしらのフィードバックがあってもよいと考える。

○小野委員

私の要望は、外部評価委員を20人なり30人に増やして、すべての戦略を毎年外部評価してほしいという、委員会の体制に関わる問題で、この点については私だけでなく中井委員も同趣旨の発言をしていた。委員会の体制については、今結論を出せないことは理解しているので要望事項として盛り込んでもらいたいのだが、この要望を受けて市がどのように検討したか、その検討結果を知りたいということである。

○井上委員長

この報告書を提出したあと、市では来年度の外部評価委員の公募をしようと思うが、その際に募集要項の中でどのような公募の仕方をするのか、あるいはどのように委員会を開催していくのかといったことが確認できる。そこで今回の当委員会の要望が活かされているかが分かる。その際に、今回外部評価制度の検討に関わった者として市に意見を出すこともできる。また、一般的に報告書というのは、検討を依頼された事項に対して議論の結果のみ記載するものであるが、外部評価をより充実させるためには人員の増員等委員会の体制についても検討すべきであるという意見などについては、報告書に盛り込むべきと判断したため、敢えて「4 外部評価制度の運用に関する要望」の項目を追加したものであるということをご理解いただきたい。

○中井委員

一つ目の要望事項で委員を増員する旨が記載されており、二つ目の項目では高い専門性が必要とされる場合があるために委員の構成を工夫する旨記載されている。このように記載すると、市が委員を選任する際に専門家を優先的に選ぶということになってしまうのではないかと。

○井上委員長

二つ目の項目では「戦略2や戦略3などは、外部評価にあたって専門性が必要とされる場合がある」と記載しており、主に戦略2と戦略3で専門性が要求されるという限定的な記載の仕方としており、すべての分野で専門性が要求されるという記載にはしていない。

○中井委員

二つの項目を続けて読むと、増員の対象は専門性の高い委員と解釈できるため、市民参加の拡大につながらなくなる。市民参加は拡大方向であるべきだと考えるので、一つ目の項目に「市民参加の拡大に向け」という言葉を加えて、「市民参加の拡大に向け委員会の体制について検討すること」としてはどうか。

○喜多委員

中井委員の修正案でもかまわないが、二つ目の項目は戦略2や戦略3など専門的な分野に限定しており、一つ目の項目は委員会の体制全体についての記載であるので、私はこのままで問題ないと思う。

○井上委員長

二つ目の項目の「高い専門性が必要とされる場合が想定される」の部分と、「高い専門性が必要とされる場合も想定される」とすれば意図がより明確になるので、そのように修正することとする。

小野委員のご意見についてであるが、報告書としては委員会としての総意をまとめる形とさせていただきます、市長に提出する際に、当委員会からの要望に関しては個人委員も含めてきちんと検討結果をわかるようにしていただければ幸いですということをお伝えすることとしたい。

それから、2頁の論点1の下から2行目「アドバイス・提案し、」の部分は表現がおかしいので「アドバイスや提案を行い、」に修正する。

○中井委員

4頁の論点1の部分の「分析力や国語力の不足が非常に目立った」という部分は、受け止める市の側からすると表現が厳しすぎるようにも思うが、具体的で分かりやすいので是非このままの表現を活かしていただきたい。

6頁の論点5「本来の評価にかかる議論ではなく、単なる事実確認等のための質疑応答に多くの時間を割かれてしまったという反省がある」の部分は、今年度の当委員会の反省ではなく、第5次総合計画における外部評価委員会の反省という理解でよいか。

○井上委員長

その通りである。これまでの外部評価でそのような反省があったため、今回の検討結果

のような結論に至ったという文章の流れとしている。

○中井委員

どちらの部分も、市民にとって分かりやすい表現になっている。受け止める市の側は大変かと思うが、せっかくここまで書き込んでいただいたので、委員長には市民感覚でしっかりと市長に当委員会の想いを伝えていただきたい。

○喜多委員

最近は何でもカタカナ語で書かれることが多いが、本報告書はほとんど日常で使われる言葉で表現されており、大変分かりやすい。

○井上委員長

それでは報告書については基本的には原案どおりとし、部分的に文言の修正を加えて、正式な報告書としてまとめることとする。

3 その他

【今年度の委員会全体を通しての感想】

○千里委員

外部評価に携わったのは今回が初めてだが、「えべつ未来づくりビジョン（第6次江別市総合計画）」の策定には深く関わっていた。そのときは、かなり多くの市民委員が参加しており、まとめるのが大変であった。今回も少ない人数とはいえ、様々な意見が出されたが、委員長にうまくまとめていただき感謝申し上げる。

○中井委員

計画は膨大な時間と人員をかけて作成しているのに、評価になると縮小しているように思う。評価こそ大切であるので、計画ばかりに偏らないように留意すべきである。

○中尾委員

外部評価委員として江別の総合計画などについて勉強することができ、この委員会に参加させていただいたことをありがたく思う。また、他の委員の方々の熱意にも感動させられた。今後、外部評価が実施されていくことになろうかと思うが、今回の委員会の検討結果が活かされれば幸いである。

○喜多委員

委員会は2カ月に一回ずつ開催すると予め決めておくなど、開催回数や開催時期を明確にして、定期的で開催するようにしてほしい。このような専門的で難しい議題であれば、できるだけ前回の議論を忘れないうちに短期間で開催するのが好ましい。

○山下委員

なぜ外部評価が必要かという点、多くの自治体では予算を獲得することを美徳と考える体質があるが、予算を獲得できたかどうかではなく、それを如何に効率的・効果的に使ったかが重要であり、そこを確認するのが行政評価であるにもかかわらず、内部評価はお手盛りの評価になってしまっているケースがあるため、外部評価で外部の視点からチェック

するという事である。そういう意味において、江別市においても外部評価は引き続き力を入れてやっていくべきだと考える。また、外部評価委員会からの指摘事項について、市からのフィードバックが何も無いのは心許ないので、報告を受けてどのように変わったかということがわかると非常によいと思う。それから、議論の中で専門性の高い委員による外部評価という意見も出ていたが、逆に私は専門性が高いのはよくないと考えている。専門家ではない人が見ても理解できるような評価になっているべきで、そうなっているかどうかをチェックするのが外部評価の場だと考える。来年度以降、外部評価を実施していく際には、そのような点にも留意して取り組んでいただければと思う。

○小野委員

江別市は市民千人当たりの職員数が近隣の自治体より少ない中で頑張っており、もう少し職員がいれば、今回議論された話題も含めて実現できることがたくさんあるはずで、非常に気の毒に思う。簡単に職員の増員はできないとは思いますが、少しでもスタッフを増やすように、機会があれば市長なり色々な関係者に伝えていただきたい。

○加藤副委員長

5回に渡り、非常に闊達にご議論いただき、参考になる意見をたくさん頂戴した。考え方はそれぞれの委員で異なる部分はあったが、江別市を想う気持ちからのご発言であったと思う。各委員から出された意見をまとめたこの報告書を踏まえて、来年度の外部評価が始まると思うが、それぞれの部局がどのようなことに取り組んでいるかを上手く市民に伝えていくコミュニケーションの部分が行政に不足していると感じるので、市全体として市民とのコミュニケーションを疎かにせずに進めていっていただきたい。そうすることで、市民も行政が何をやっているのか、何が足りないのか、何をもっと頑張ってもらいたいのかといったことが実感でき、市民満足度等にも反映されるようになって、さらには市民が応援してくれるような取組になっていくと思うので、ぜひ頑張ってもらいたい。

○井上委員長

当委員会の検討結果が、市の内部評価にどのような影響を及ぼすかという視点で各委員の意見をまとめるよう努力したつもりである。行政はやるべきことをきちんとやるのが重要で、取り組んだ内容を市民に説明できるようにすることが内部評価である。それが十分にできているかどうかを、市民全体の代弁者として指摘することが外部評価委員会の役割である。さきほど意見が出ていたように、計画策定にあたってたくさんの市民が参加することで様々な意見が出るが、その結果が多数決の優先順位になってしまって逆に困ることも往々にしてある。様々な意見が出されたとしても、方向性を間違わなければ問題ないと思う。人口構成としては女性の比率が若干高いが、政策を決定する場では男性比率が高い現状である。これは女性の目が行き届いていないことの表れであるので、報告書に要望として盛り込んだ委員の選考方法のところで工夫してもらいたい。当委員会も女性は一人だけであったが、これではバランスが悪いので是正していくべきである。また、外部評価委員に求められている責任を果たすために、事前の学習は重要であり、そのような時間をつくっていただければ、委員になる方も気軽に参加できると思う。公募をかける前に説明

会などで声かけをするなど、なるべく多くの市民の方に委員に応募していただけるような環境整備をしていけば、当委員会からの要望が活かされた形になると思うのでよろしくお願いしたい。

4 閉会